



# WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会会報

No. 5 December 15, 2007

ジョークの心得三か条：1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。

2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。

3. ジョークは簡潔が至上です。

## 今月のエッセー

### Play on words in Songs

Gary Duval



I love comedy and I love music especially rock and country. Comedy finds a way into these and I have a collection of several of the best examples. Country music is well known for its songs of broken hearts, dogs, whisky, and bad men, but it also has many songs that are very funny when one listens closely to the lyrics. Some of the funny lyrics include *double entendre* or play on words.

If you look at the titles of some of the songs you can get the idea: *If I Said You Had a Beautiful Body Would You Hold It Against Me*, *I'm going Through The Big D and I Don't Mean Dallas*, *I Shaved My Legs for This?*, among others.

Of course, the first title makes a play on words on the phrase "hold against" which means to become angry with or to not forgive you, and the more direct meaning of holding one's body tight against another person's body. It also is making fun of the way men and women get upset if the wrong person says the wrong thing to a person. If a woman heard that she had a beautiful body from a handsome, charming man, then she might be more willing to hold her body tight against his. On the other hand, if the words came from a man the woman thought not attractive, she might very well never forgive him.

The Big D is divorce and not Dallas, the city. The song makes fun of the American way of divorce.

Another song by the same artist, Jerry Reed, was *She Got the Gold Mine and I Got the Shaft* which refers to a vulgar American term meaning to be severely beaten or to lose all of one's money in a business deal or through some trickery.

The ladies of country also get into the act with songs that make fun of how they get all dressed up and their boyfriend shows up in his jeans and only wants her to go to the local sports bar to hang out with his own friends or just the fact that the dates turns out badly and she should have stayed at home, and not shaved her legs.

These examples show how writers play with words to create images that amuse and entertain us. I enjoy the images that the titles create like *I Want a Beer as Cold as My Ex-wife's Heart* or make fun of our life styles and new values like *Billy Broke My Heart at Walgreens* and *I Cried All the Way to Sears*. They all keep us from getting too serious about ourselves and help keep us sane.

## 今月のジョーク

What is the thinnest book in the world?

*What Men Know About Women.*

第5回研究発表会

Animal Jokes

吉野陽子・長谷部香代

英語のジョークには、動物が登場することが多く、ジョークの中のひとつのカテゴリーとして分類されるほど広がりがあります。

動物を主人公にしたジョークは米国が断然多く、これは次のような理由によると見られます。

- ・未開の大陸には、欧州から来た移民にとって未知の動物が沢山いた。
  - ・狩猟民族にとつて、動物は身近だった。
  - ・元来楽観的でジョーク好きの国民性が発展する中で、動物を擬人的に捉える手法が受けた。
- 以下、3つのカテゴリーで見ていきましょう。

I. Word Play—言葉遊び

- \* What do you call a deer with no eyes? No eye deer.  
(注) = No idea (分からない)
- \* What's a zebra? 26 sizes larger than an "A" bra.  
(注) zebra = z bra(ssiere). Aより26倍のZサイズ。

\* Why did the homeless turtle cross the road? To get to the Shell station.

(注) shell は「亀の甲羅」と「シェル石油のスタンド」にかけている。甲羅のない亀は、オナオチホームリス。

II. 動物の特性を生かして擬人化し、笑いを誘うもの

- \* Why can't you have two elephants in your swimming pool at the same time? Because they'd have only one pair of trunks.  
(注) trunk 象の鼻、ペンツ。a pair of trunks 「象の鼻二本」と「ペンツ一枚」の両方の意味にかけている。

\* The baby snake says to the mommy snake, "Mommy, are we poisonous?" The mommy snake says, "Why do you ask?" And the baby snake says, "Because I just bit my tongue."

\* 「タイアが出来、コンピューターに通じ、2か国語があべつれる者」という求人広告に、イヌが応募し、タイアもコンピュータも操れることを実証しましたが…。

The manager was totally dumbfounded! He looked at the dog and said, "I realize that you are a very intelligent dog and have some interesting abilities. However, I still can't give you a job. The sign also says that you have to be bilingual." The dog looked at the

manager calmly and said, "Meow."

(注) meow は「ニャー」というネコ語。

\* Patient: Doctor, I keep thinking I'm a cat.

Doctor: How long has this been going on?

Patient: Since I was a kitten.

(注) 私が子猫だったところからです。

III. 雑種にひねったもの

\* A sailor went to an auction and bid for a parrot. The sailor bid \$10, but someone else bid \$20. The sailor bid \$25, but someone else bid \$30. The sailor bid \$35, but someone else bid \$40. The sailor was determined to buy the bird and put in a final bid of \$45. This time there were no other bids and the parrot was sold to the sailor.

"That's a lot of money I've paid for this bird," said the sailor to the auctioneer. "I hope he can talk." "Of course he can talk," replied the auctioneer. "Who do you think was bidding against you?"

(注) 値を釣り上げていたのは、実はオウム自身でした。

特別編—Stupid Laws in USA

～こんなへんな動物に関する法律があった！～

- \* You cannot chain your alligator to a fire hydrant.  
(注) hydrant=消火栓 (Alabama)
  - \* Even though it is legal to hunt a bear, it is illegal to wake a bear and take a picture for photo opportunities.
  - \* Kangaroos are not allowed in barber shops at any time. (Alaska)
  - \* It is illegal for anyone to give lighted cigars to dogs, cats, and other domesticated animal kept as pets. (Illinois)
  - \* In Tarentum, Pennsylvania it is illegal to tie horses to parking meters. (Pennsylvania)
  - \* It is illegal to milk another person's cow.
  - \* It is illegal to shoot a buffalo from the 2nd story of a hotel. (Texas)
  - \* It is illegal to catch a fish by throwing a rock at it. (Washington)
- もちろんこれらは厳密に守られたということではなく、次のような理由が考えられます。
- ・各地方自治体の独立性が強いから、実情に応じて開拓者たちが勝手に法律をそれぞれ作った。
  - ・風俗習慣を異にする異民族の集合体だったから、共通の基準として、なんでも法に定めることが必要だった。
  - ・立法過程でユーモア感覚が大いに働き、エンジョイしながら法律にした。

## 第5回研究発表会

### 『今の中国』をジョークする

～チャイナ・パッシングのニューズ漫画から～

草野 淳

世界はいま「中国」であふれかえっている。

衣類や食品はもう当たり前のこと。中国資本が次々海外へ進出、観光地はどこも中国人の姿が目立ち、中国語が飛び交う。英字紙・誌の見出しには「China」の活字が連日のように、いくつも大きく踊っている。

そんな『今の中国』が英語ジョークの世界ではどう取り上げられているのか。以下はホットなニューズ漫画を拾い出した“ユーモア版チャイナ・シンδροーム”の断片紹介である。(版權を考慮して漫画自体は割愛した)

☆漫画 1：2008年北京五輪聖火台の炎は、周囲の工場からもくもくと吐き出される煙りにかき消されてしまう。なにしろ中国の温室効果ガス排出量はいまにアメリカを追い越すそうだから。

"China's people seem to speak with greater ease and breathe with greater difficulty."

(この頃の中国の人たちはずつと気軽に口を開くようになったが、息をするのは以前よりもつと苦しそうだ)

と痛烈に皮肉るのは、ニューヨーク・タイムズの名コラムニスト、トーマス・フリードマン氏の訪中記。

☆漫画 2：2007年10月、5年ぶりの共産党大会の開会では「ただいまから株主総会を開催いたします」という宣言が流れる。脱共産主義・拝金マインドの中国社会を揶揄している。

☆漫画 3：Tシャツの店にはついに "No to Chinese Textiles" (中国製はおことわり) と胸に大きな文字で刷り込まれた中国製のシャツまでが吊り下がっていて、思わず笑わせる。

☆漫画 4：朝、洗面所で歯を磨くアメリカ人男性が歯磨きチューブのラベルを丹念に読んでいる。

そこには小さな字で「中国からの輸入品。有害な製品だったことを深くお詫びします。当該メーカーの社長はすでに処刑されております」と。

国際的な評判ばかりを意識した中国流対処を辛辣に皮肉る。

☆漫画 5：中華レストランの客がメニューを見ながら "WHAT DOES 'SWEET AND SOUR' MEAN?" と聞くと、ウェイトレスの返事がふるっている。"CHEAP and AT-YOUR-OWN-RISK" (安いけど危険は覚悟することよ)

☆漫画 6：「アメリカにとつての最悪なシナリオとは？ ロシアの爆撃機が中国製の(有毒な)玩具を空から投下してくる事態ですぞ」

軍・外交のスタッフからそんな警告を受けるゾツシユ米大統領。機知に富む国際解説だ。

☆イギリスの国際情報誌 Economist の表紙はいつもハイセンスなユーモアで読者をうならせる。ある週には「ニューヨークのエンパイア・ステート・ビルによじ登った1頭の巨大なペンダ」の合成写真が。「中国」にのさばれる「アメリカ」の苦い思いを描く。かつての映画「キングコング」を想起させる。

ジョーク会での発表を終えたわずか数日後の米紙インターナショナル・ヘラルド・トリビューンに、またまた中国風刺の漫画が載った。

サンクスギビングデーのデイナーで、中国から取り寄せた七面鳥を御馳走になった人たちが食あたりでみんな椅子ごと倒れ込んでいる…。

「中国ジョーク」はしばらく事欠きそうにない。

## 私のお勧めジョーク集 豊田一男

ジョークには様々な種類があり、その理解も一筋縄ではいかないものが多い。今回はジョーク入門に相応しいと思われる2冊を取り上げる。

### ・丸山孝男(2007)『ジョーク見本帖』(大修館)

ジョークをテーマ別、種類別に分けて様々なジョークを紹介するもので、名は体を表すタイトルのなっている。ジョークの世界では定番の「教室のジョーク」、「親と子」、「ノック・ノックジョーク」、「レストラン・ジョーク」、「よい知らせ・悪い知らせ」、「エレファント・ジョーク」などと、ジョークの見本を知る手掛かりになる。いわゆる dirty jokes はほとんど取り上げられていないので、女性も気分を害することなく楽しめるはずである。

本書の特色の1つは「ジョークのオチを考えてみよう」というコーナーで、各章の終りに合計20あるジョークのオチをテストされることになる。初級・中級・上級とあり、読者は自分の「ジョーク理解力」を試されることになる。しばらく遠ざかっていた学校の試験を受ける気分になる。中級の例を1つあげれば

Father: Stop acting like a fool!

Son: I'm not acting.

巻末の「日本語訳と解説」を読んで正解を知ることになる。ジョークの入門書としてお勧めしたい。

### ・David Pickering (2006), Penguin Pocket Jokes (Penguin)

最近たまたま本屋で見つけたもので、比較的新しく手に入りやすいだろう。「名は体を表す」点では文字通り上着のポケットに入る大きさで、電車の中で読むのにぴったりのサイズである。

Abominable snowman(雪男)から Zoos(動物園)までアルファベット順に240の見出しに関する one-liner(気のきいた寸言)、短いジョークが詰められている。長めのものほとんどないので短時間でいくつかを楽しむことが出来る。古典的なものも含めて、前掲書に取り上げられている様々な分野のジョークだけではなく、ことわざのもじり、などなその類もまあよく集めたなと思えるくらい、これでもかこれでもかと並んでいる。一気に読むことはお勧めしない。短いジョークのオチ (punch line) は圧倒的に pun(駄じやれ)によるものが多いが、本書に集められたものも例外ではない。その意味ではどれも pun を意識して「ジョークのオチを考えてみよう」ということになる。

## 第6回研究発表会のご案内

会員各位のご参加をお待ちします。同好の士にも、お声をおかけください。

●日時：1月26日(土)午後2時～4時

●場所：クオリテイ株式会社8階会議室  
(東京都千代田区平河町1-4-5 平和第一ビル)

●交通：地下鉄・有楽町線麴町駅1番出口より徒歩2分。詳しくは、

<http://www.quality.co.jp/> でご覧ください。

●発表：

服部陽一会員 「製品開発とジョーク」、

植田良明会員 「名番ある(?)イグノーベル賞」

●参加費：会員無料、非会員500円

○開始時刻が、いつもより1時間繰り下がっていることにご注意ください。

○研究発表会終了後、近くの喫茶店で、交流会を開きます。どうぞご参加ください。

## QUESTION BOX を開設します

ジョーク本を読んでいて、あるいはパーテイナーで披露されたジョークを耳にして、「どこが面白いのかわからない」、というつらい思いをしたことはありませんか。

そうした難解ジョークを、全会員の英知を結集して解き明かそうとするのがこの欄です。

質問は、会報編集人・佐川まで、メールでお寄せください。 [mmsgawaga403@sg6.dion.ne.jp](mailto:mmsgawaga403@sg6.dion.ne.jp)

ジョークの性格によって、その分野に詳しいような会員の方々に、その質問を転送し、解答を募ります。質問と解答は、順次、本紙上で発表していきます。

## WE, JOKERS 英語のジョークを楽しむ会会報 第5号

発行日：2007年12月15日

発行人：世話人代表 宮本倫好

編集人：佐川光徳

発行所：英語のジョークを楽しむ会

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-4-5 平和第一ビル  
クオリテイ株式会社 気付

TEL:03-52275-6121, FAX:03-52275-6130

e-mail: [eigojoker@yahoo.co.jp](mailto:eigojoker@yahoo.co.jp)